

ミカン生産量全国一の和歌山県でも屈指のミカンの産地として知られる和歌山県海南市下津町では、近年、過疎化・少子高齢化が進み、後継者不足から農家の廃業が目立っている。とりわけミカンの繁忙期（11・12月）は、収穫・運搬・選別作業における労働力不足が極めて深刻な状況となっており、当協議会では2017年からミカン農家と労働者とのマッチングを行ってきた。近年、需要が急増しているため、労働力の安定供給を目指すために、他産地・他産業との連携、および労働者の受け入れ先となる宿泊施設の新規開拓を行う。また当協議会の会長によるワンマンでの対応では限界があるため、よりスムーズにマッチング等が行えるよう、チーム・デジタル導入でデータベース化を行う。加えて農家へ取材を行うことで課題と解決策をヒアリングし、それらをWEBや冊子の形で広めることで、農業の「働き方改革」の底上げに貢献する。

事業実施主体構成員

加茂川協議会 会長:大谷 幸司
加茂川協議会 援農チーム 広報・事務:伊藤 有佳利、梅本 智子
加茂川協議会 会計 炭 典樹

実績値（目標値）

- ①下津町のミカン農家における労働力の充足率：70%（令和4年度の推定値）から85%にアップ。52.6%（目標値85%）
- ②特定の他産地・他産業との連携によって雇用した労働者数：13名（目標値30名）

令和5年度取組み内容

今年度の取組み内容

ア 労働力の需給状況の把握（地域の状況及び労働力提供可能な者の把握等）

・2023年7月に、下津町農家を対象に、労働力不足の状況に関する調査を実施。（726/1000経営体回答）
・47.4%が「労働力が不足している」と回答しており、「後継者がいない」と答えた農家が66.4%。規模の縮小を検討している農家が36.9%おり、そのうち「後継者がいないため」との回答が50.2%、「高齢化により管理が行き届かない」との回答が45.1%となっている。縮小したあとに貸出を検討している農家が18.8%に対して、廃業を考えている農家が42.5%と大きな数値を占めている。労働力がこのまま不足した状態が続くと、近い未来に下津の産業が大きく変わってしまうことが推測される。

イ 産地内での労働力確保・育成

- ・2023年9月から、みかん援農の公式HPにて求人を開始。<https://en-nou.net/>
（2024年2月時点実績：求人数71件、応募数87件、成立数68件）
- ・2023年10月10日から、有償の外部メディア「greenz.jp」にて求人記事掲載を開始。https://greenz.jp/2023/10/10/mikan_enno/
他、「しごと暮らし体験」「smout」「ネイティブメディア」を無償で外部メディアに掲載。
- ・2023年10月22日に、《みかん援農2023 @和歌山/下津町》オンライン説明会を開催し、みかん援農の取り組み説明や援農に関する相談を行った。
- ・2023年9月から、県内外にチラシを配布した（会長が経営するカフェ・KAMOGOなど）。

今年度の取組み内容

ウ 他産地・他産業との連携による労働力確保

<他産地と連携した労働力確保>

・ミカンの収穫時期（11月・12月）に他産地・他産業と連携し、繁忙閑散期の異なるエリアからの労働力13名の受入れを実施。

ア 募集する労働者の居住地（出発地）：国内全域（特に北海道・奈良県・鹿児島県・和歌山県）

イ 労働場所（目的地）：加茂川協議会による援農の斡旋を希望した下津町のミカン農家

ウ 宿泊場所：

(a) 援農参加農家が管理する民家別棟

(b) 生活協同組合エスコープ大阪が管理する保養所

(c) 賃貸物件（年間契約で借上げ済み1棟、月間契約3棟）

(d) 近隣地域の空き家

エ 募集条件：60名募集、収穫・運搬・選別作業、11～12月、5勤2休、1日8時間程度

エ 労働力等のマッチング及びデータベース化

・会長による属人的なワンオペ運営を全てオフラインで回していたことにより、対応に限界が出ていたことを踏まえ、再現性・効率性のあるチーム体制を構築し、より発展的にマッチングの拡充を図った。セキュリティ保護のあるオンラインストレージの利用や、援農者の申し込み状況リストやマッチングリストなどの作成の結果、状況をメンバーで共有することができ、全体像の把握およびマッチングが非常にスムーズに進んだ。また詳細なアンケートの結果をデータでまとめて可視化することができ、農家が抱える課題や今後についての意識などがはっきりと見えるようになった。援農者についても、事前にアンケートをとった結果、リピーターと新規参加者の割合や属性の他、農業に関して意識の高い参加者が多いことが認識できた。

オ 農業の「働き方改革」への取組

各農家へ個別訪問のうえ取材し「働き方改革」における課題と解決策を詳しくヒアリングし、援農WEBサイトで情報を公開。下津町のミカン農家にとどまらず、全国的に農業の労働力不足・後継者不足が課題となっている今、個々の知見や知恵を広く共有し、総力戦で現状を打開することを目指した。さらに情報の共有・訴求を目的に優良事例を共有する紙面を制作してミカン農家へ配布し、下津町の農家が足並みを揃え「働き方改革」に取り組める環境をつくった。取材記事は以下の通り（6名3組の農家へ取材を行ったほか、7名・3組の援農者への取材も実施）。

・「今年もご苦労さん、また来年」9代続きみかん農家のご夫婦

<https://en-nou.net/ennou/journal/farmer1/>

・「大変さの分だけ笑顔を届けて」親子二世代で運営するみかん農園

<https://en-nou.net/ennou/journal/farmer2/>

・「その本領が発揮される環境を」樹上完熟で販路を開拓する農家

<https://en-nou.net/ennou/journal/farmer3/>

・「海外より価値観が広がるかも」次のステップに進んだ援農卒業生

<https://en-nou.net/ennou/journal/worker1/>

・「日常に“ありがとう”が増えた」シェアハウスに同居する援農女子

<https://en-nou.net/ennou/journal/worker2/>

・「これからの選択肢に出会えた」シェアハウスに同居する援農男子

<https://en-nou.net/ennou/journal/worker3/>

本事業取組みにおける成果項目

業採択者の報告会に参加できた事により、全国の様々な産地の動き、季節の労働力需要状況の把握が進み、今後よりコミュニケーションを進め連携を強めたり、最適な連携先を模索出来る可能性が広がった。特に元々連携先として想定していなかった婦恋キャベツ振興事業組合さんのカンボジア特定技能者の受け入れは、農家からの評価も非常に高く、期待以上の良い結果となった。

次年度以降の取組み内容

より安定して労働力を確保できるよう、地域間の連携を強めていく他、みかん援農自体の認知もさらに広げていきたい。また婦恋との連携を強め、カンボジア特定技能の受け入れをより進めていけると考えている。